

平成28年度 3年 福祉実践教室（点字教室） 報告書

1 ねらい

視覚障害者を招いて点字教室を実施することで、点字の役割を知るとともに、身近な点字にふれ、簡単な点字を読んだり書いたりすることができるようにする。また、視覚障害者と直に接することで、視覚障害者福祉に関心をもつことができるようにする。

2 対象 3年生 3クラス 計95名

3 講師

講師	平松 鉄治さん	山下美恵子さん	西田 智子さん
アシスタント	二村明美さん	加藤鈴代さん	高島由佳子さん
	稲田 利勝さん	吉村美穂さん	高須陽子さん
	小松千鶴子さん		
こころのひとみ	佐藤美恵子さん	矢頭かなゑさん	三輪秀昭さん

4 活動内容

9月12日（月）10：35～12：10

○視覚障害者の方のお話を聞き、質問する。

○ビデオ「点字のしくみ」を見て点字の読み方を学習し、簡単な点字を読む。

○点字の打ち方を学習し、「しおり」に自分の名前を打つ。

○「こころのひとみ」の方に、打った点字を読んでもらう。

5 活動の様子（写真）



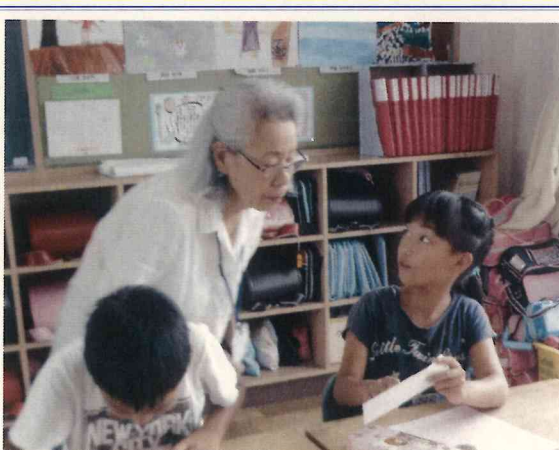
<点字の役割について教えてもらう>



<点字の読み方・打ち方について教えてもらう>



<点字を打つ>



<点字を打つ>



＜打った点字を読んでもらう＞



＜打った点字を読んでもらう＞

6 点字教室を終えて

今回の点字教室で、3年生の子どもたちは、点字のできた理由、点字の規則性などを学ぶことができた。生活の場で駅の券売機、エレベーターなど、点字は身近なところでたくさん使われているが、点字そのものに関心をもたなければ、点字についてなかなか知る機会がない。

また、視覚障害者でなければ、その有用性を理解するのは容易でない。その意味から今回、視覚障害者に実際に学校に来ていただき、生活の様々な場で点字が使われているありがたさなど話をお聞きすることができたことは、たいへん意義の深いものであった。

点字は6つの点で表されていて、1番から6番まで全て打った文字は「め」を表すということや、点字にはローマ字のような規則性があることを知ることができた。また、自分の名前を点字で打つことにどの子ども真剣に取り組み、自分の打った点字をこころのひとみの方に言い当ててもらった時、とてもうれしそうな表情を見せた。

授業を終えての子どもたちの感想では、「点字は、目の見えない人に言葉を与えているんだということが分かりました」「点字は難しかったけれど、今度、エレベーターにのったときに見てみたい」「空缶にも点字が使われているのは知らなかった」「もっといろんな点字を読みたい」など点字に関心をもった様子が表れていた。

たいへん有意義な体験を子どもたちにさせてくださり、心から感謝を申し上げます。